

自治体等主催による介護に係る研修プログラム《ひな型》一覧 …各地の自治体からいただいた研修会プログラム等をもとにモデル化したもの

- 〈A〉 帰国者を支援する者（支援・相談員、自立支援通訳等）を対象とした研修
- 〈B〉 介護サービスを提供する者（介護施設、介護事業所等管理者や責任者など）を対象とした研修
- 〈C〉 帰国者（本人世代とその家族）を対象とした研修会

〈A〉 帰国者を支援する者（支援・相談員、自立支援通訳等）を対象とした研修

主催：自治体援護部門

研修会タイプ：【支援・相談員、自立支援通訳等のための研修会】

対象：支援・相談員、自立支援通訳等（以下「支援・相談員」で代表）

※帰国者援護に係る連絡事項と組み合わせた研修会にしている自治体多し。

※主催が都道府県の場合は、市区町村援護部門職員も参加する自治体多し。

テーマ／目的	研修プログラム例 [およその所要時間]	講師 例	利用可能な所沢資料／その他の資料	その他
介護保険制度についての基本事項を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●講義：介護保険制度の基本的しくみと利用の流れについて説明する(入門編) <ul style="list-style-type: none"> ★できれば日本語と中国語※で ※支援相談員が介護通訳演習を兼ねて通訳する ●全体での質疑応答 ●少人数に分かれての介護支援事例の紹介、対応についての相談や意見交換、最後にまとめとして各グループで話し合われたことを共有する [2.5～3 時間] 	<ul style="list-style-type: none"> ●老健部門の職員／(老健経由)社協に講師依頼／(老健経由)地域包括センター等に講師依頼 	(1) ① (②、③) /自治体作成の介護保険説明パンフレットや高齢者の生活ガイドブック ※②は支援・相談員が帰国者宅等で介護保険制度についてこれを示しながら説明する際に用いることができる資料 ※③は介護サービスのイメージがつかめないという支援・相談員のための DVD (貸し出し可)	
認知症についての基礎知識を身につけ、適切な通訳支援や相談対応に繋げる	<ul style="list-style-type: none"> ●講義：身近な病気となった認知症について、原因と症状について、本人の気持ちや接する者の心得等についての基本的事項を説明する(入門編) <ul style="list-style-type: none"> ★できれば日本語と中国語で ※支援相談員が介護通訳演習を兼ねて通訳する ●全体での質疑応答 ●少人数に分かれ、認知症を発症した帰国者の事例、支援の事例について紹介、対応についての相談や意見交換、最後にまとめとして各グループで話し合われたことを共有する [2.5～3 時間] 	<ul style="list-style-type: none"> ●老健部門の職員／(老健経由)社協、地域包括センター等に講師依頼／保健師に依頼／全国キャラバン・メイト連絡協議会、全国高齢者ケア協会、コウノメソッド実践医等々に依頼 	(1) ⑧ ⑩ (⑨) ※⑨は支援・相談員が帰国者宅等で認知症について説明する際に用いることができる資料 ※⑩の日本語版(市販)については、図書館等で入手できない場合、貸し出し可 ※キャラバンメイト http://www.caravanmate.com/ ※コウノメソッド http://www.forest-cl.jp/method_2014/kono_metod_2014.pdf	
要介護認定調査の際に円滑に通訳支援を行うための基礎知識を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ●講義：要介護認定調査の概要を理解する、調査項目について知る、調査場面での調査員としての留意点やおこりがちな問題について知る、通訳支援の課題について考える <ul style="list-style-type: none"> ★できれば日本語／中国語で ※支援相談員が介護通訳演習を兼ねて通訳する ●演習：帰国者と調査員との調査場面を想定しての通 	<ul style="list-style-type: none"> ●(老健経由)自治体の調査員等に依頼 	(1) ⑤	※介護保険制度の基本についてはすでに了解されているという前提で

	訳演習 ●調査員への質疑応答 ●支援相談員間での意見交換(具体的な通訳の仕方や支援のあり方を巡って) [1.5～2時間]			
介護支援に関わる事例から問題解決のヒントをつかむ ①	●講義：介護支援に関わる事例を紹介する ★できれば帰国者支援の経験から問題解決にいたった事例を紹介する／一般日本人を対象とした支援経験から問題事例やその解決方法を紹介する ★できれば日本語／中国語で ●支援・相談員の支援近況及び担当事例の紹介 ●全体での質疑応答・意見交換 [2～2.5時間]	●帰国者援護部門経由／老健部門経由で、ベテランの担当者、支援・相談員等、ケアマネ、地域包括支援センター責任者等に依頼	(1) ① 第8章「支援・相談員の支援上の留意点」を補助資料として	※介護保険制度の基本についてはすでに了解されているという前提で
介護支援に関わる事例から問題解決のヒントをつかむ ②	●講義：支援・相談員から事前に提出された質問や課題への回答を中心に据えた講義 ★できれば日本語／中国語で ●上記を受けて支援・相談員の支援近況及び担当事例の紹介 ●全体での質疑応答・意見交換 [2～2.5時間]	●帰国者援護部門経由／老健部門経由で、ベテランの担当者、支援・相談員等、ケアマネ、地域包括支援センター責任者等に依頼	(1) ① 第8章「支援・相談員の支援上の留意点」を補助資料として	※介護保険制度の基本についてはすでに了解されているという前提で

** 介護サービスを提供する者(介護施設、介護事業所等管理者や責任者など)を対象とした研修**

主催：自治体援護部門

研修会タイプ：【介護関係者研修会】

※主催が都道府県の場合は、市区町村援護部門職員への初任者研修として機能させることもできる。

対象：帰国者の居住地の介護施設、居宅介護事業所等の管理者や責任者等、地域包括支援センター責任者、民生委員、市区町村援護部門職員

テーマ/目的	研修プログラム例 [およその所要時間]	講師例	利用可能な所沢資料/その他の資料	その他
帰国者とはどういう人々かについて知ってもらおう	●講演：中国帰国者とはどういう人々か、その歴史的背景、日本に永住帰国してからの困難、老後の課題等についての説明する ●講演：帰国者本人の体験談を話してもらう ※残留婦人の場合は日本語で講演可能だが、孤児の場合は通訳が必要 ●講演：帰国者2世による親世代の苦労について、また、親世代の生活習慣や考え方について紹介する(帰国者事情、中国文化事情) ●質疑応答 [1.5～2時間]	●支援・交流センターに各講演者を推薦してもらう	(2) ① (2) ① (2) ③	※介護サービス提供側には、資料(2)②も配布

主催：自治体老健部門

研修会タイプ：【介護関係者 研修会・連絡会・集団指導】

※老健主催の研修会等の時間を一部もらって援護部門が研修を行う(割り込み)

対象：介護施設、居宅介護事業所、福祉用具事業者、医療施設(介護療養型、短期入所療養介護)等の管理者や責任者、あるいは職員

※都道府県市区等いろいろな規模での研修会がある。事業種ごとの研修会もある。

テーマ／目的	研修プログラム例 [およその所要時間]	講師例	利用可能な所沢資料	その他
帰国者とはどういう人々かについて知ってもらおう 通訳派遣の制度について知ってもらおう	<ul style="list-style-type: none"> ● ちらしの配布及び読み上げ： <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国帰国者とはどういう人々か、その歴史的背景、日本に永住帰国してからの困難、老後の課題等について説明する ・ 帰国者の生活習慣や考え方について紹介する (帰国者事情、中国文化事情) ・ 支援相談員の派遣について説明する [20～40分] 	● 自治体 援護部門 職員	(2) ① (2) ③ (2) ②	※資料(2) ③については、帰国者 2世の支援・相談員等に読み上げまたは説明してもらい、質問にも答えてもらうのが効果的だろう。(帰国者 2世を通して帰国者の存在を知ってもらうこともできるのではないか)

〈C〉 帰国者（本人世代とその家族）を対象とした研修会

主催：自治体 援護部門 / 自治体の委嘱を受けた 帰国者支援の交流会や日本語教室を運営している NPO 等

研修会タイプ：【帰国者交流会・勉強会】

※自治体主催の場合は、帰国者援護に係る施策の説明と組み合わせた交流会にしている場合が多い。また、工場見学や果物狩り等のイベントとの組み合わせも多い。

対象：帰国者 1 世代を中心に 2 世代にも呼びかける (高齢 1 世代の介護を担うことになる 2 世代に制度のしくみを理解してもらおう)

参観者として：地域の介護サービス提供側 (施設や事業者、福祉用具業者等) の責任者、地域包括支援センター職員、民生委員、自治体 援護部門 / 老健部門職員等
協力者 (通訳等) として：支援・相談員

テーマ／目的	研修プログラム例 [およその所要時間]	講師例	利用可能な所沢資料	その他
介護保険制度の存在について知ってもらい、制度の利用を身近なものとして感じてもらう 介護保険制度の基本的な知識を持ってもらう	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義：介護保険：制度の基本的しくみと利用の流れ、利用できるサービス等について説明する ★ 帰国者の母語で説明 / 日本語の説明を通訳する <ul style="list-style-type: none"> ※これを支援・相談員等が担当すれば、介護通訳演習を兼ねることができる [1.5 時間] ● 質疑応答 ● 演習：「家族ができる介助のコツ」の体験学習 <ul style="list-style-type: none"> 介助の体験を通して、介護への / 介護保険制度への理解を高めてもらうとともに、介護ヘルパー等介護職の人々を身近な存在として感じてもらう ★ 日本語の説明を通訳する ● 演習：福祉用具の利用を体験し用具に親しむ <ul style="list-style-type: none"> 介護ベッド、車イスの利用と介助、歩行器、歩行補助杖の利用を体験し、介助上の留意点を知る ★ 日本語の説明を通訳する [1.5 時間] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 老健部門の職員 / (老健経由) 社協に講師依頼 / (老健経由) 地域包括センター等に講師依頼 ● 県の介護福祉士会 / 介護事業所職員 (デモンストレーション担当者) ● 自治体指定の福祉用具レンタル事業者 	(1) ② (この PP 版もあり) ③ ※介護サービスのイメージがつかめない帰国者には、③の DVD を用いて説明を加えると効果的。(DVD は所沢から貸し出し可)	<p>※帰国者 1 世代の場合、長時間説明を聞くだけの研修会では苦痛になりがちなので、DVD や質疑応答の相談コーナーや、体を動かす演習と組み合わせるのがよいだろう。(見学等、楽しいイベントと組み合わせた交流会を企画する自治体も多い。)</p> <p>※ふだんは地域で埋もれがちな帰国者が一堂に会する場となることから、介護サービス提供側に参観してもらえば、直接帰国者の存在を知ってもらうよい機会となる。</p> <p>※研修会に参加できない(足が弱って外出できない等) 帰国者も増えているので、支援・相談員は、この研修会で通訳を担当し、帰国者宅を訪問し制度につい</p>

				て説明したり質問に答えたりする際の 予行演習とすることもできるのではな いか。
介護施設の実際 を見ることで、施設等 に対する偏見を払 拭する一助とする	●介護施設の見学：施設の責任者に利用方法、手続き、 日課、活動の内容と目的等を説明してもらいながら見学 する ★日本語の説明を通訳する ●質疑応答 [1～1.5 時間] ※前述のプログラム：介護保険制度についての講義(説 明)と組み合わせて施設見学を行うと効果的だろう	●介護施設の責任 者に依頼(現場で説 明してもらう)		※中国語を話すスタッフがいる施設を 探し、直接話を聞くこともできれば便 利。
認知症についての 基礎知識を持って もらうことで、予防 や早期発見、適切な 介護に繋げる	●講義：身近な病気となった認知症について、原因と症 状について、本人の気持ちや接する家族の心得等につい ての基本的事項を説明する(入門編) ★帰国者の母語で説明/日本語の説明を通訳する ※これを支援・相談員等が担当すれば、介護通訳演習を 兼ねることができる ●質疑応答 [1～1.5 時間]	●老健部門の職員 /(老健経由)社協、 地域包括センタ ー、保健師等に講 師依頼/全国キャ ラバン・メイト連 絡協議会、全国高 齢者ケア協会等々 に依頼	(2) ⑨ (⑩) / DVD ※⑩は、親世代の 介護を担うことに なる/現在介護に あたっている帰国 者2世代に配布。	
介護予防について の基礎知識を持って もらうことで、健 康寿命を延ばす ●地域包括支援セ ンターの役割につ いて知る	●講義：介護予防の意義について説明する、介護予防体 操/口腔ケア・歯科指導/嚥下機能訓練等々について紹 介する ●演習：実際に介護予防の体操や訓練をやってみる ●講義：地域包括支援センターの役割について説明する とともに、具体的な相談事例についても紹介する [1.5 時間]	●老健部門の職員 /(老健経由)社協、 地域包括センタ ー、保健師等に講 師依頼/歯科衛生 士会等に依頼		

〈C〉の参考資料として：帰国者支援団体による帰国者のための介護研修 プログラム例

◆「デイサービス体験交流会」

- デイサービス見学(中国語が話せるスタッフのいる施設)
- デイサービススタッフによる介護保険制度の説明 DVD※を用いて … 所沢作成資料 (1)②、※DVD③を利用
- デイサービスの介護予防体操や嚥下体操の体験
- 講演：中国漢方医による漢方養生知識
- 演習：回想療法士による「認知症予防のための回想療法」についての講演のあと、グループに分かれての回想療法を体験